

資料2 食見地区周辺海域調査

1 はじめに

福井県海浜自然センターが位置する食見海岸は、常神半島と黒崎半島に囲まれた世久見湾南部にある。湾内の4箇所30.2haの海域は、すぐれた海中景観を有することから、福井県では唯一の海域公園（三方海域公園）に指定されている。これらの海域において継続的な調査により藻場や生物相の現状把握に努めることは、当該海域の環境保全および普及啓発を推進する上で重要といえる。そこで、当センターでは平成11年度から当該海域において藻場や生物相の調査を継続的に実施している。

2 調査内容と結果

(1) 海水温測定

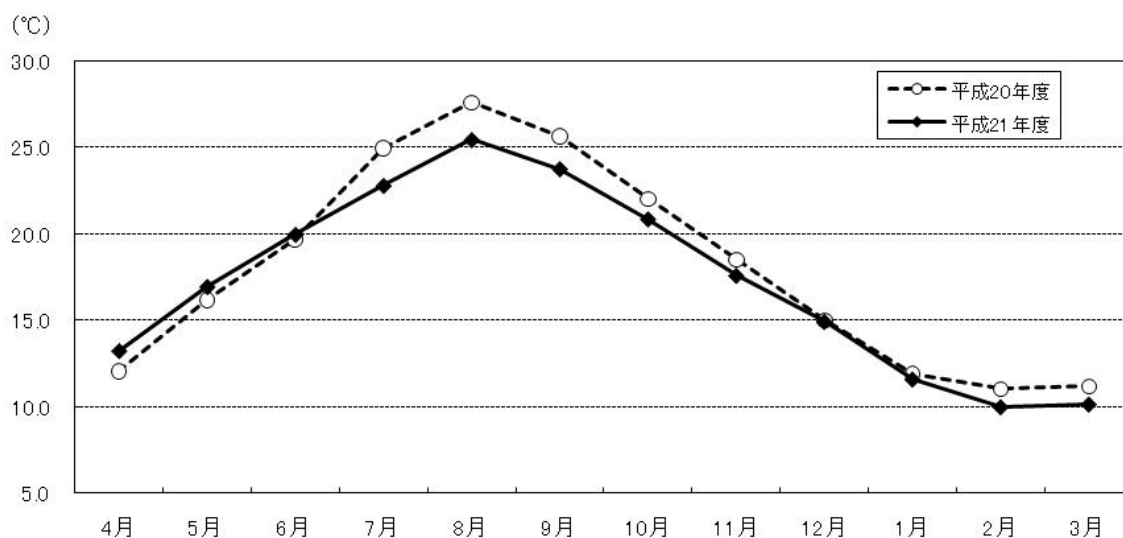
調査地点および方法

センター地先船着き場内において、可能な限り毎日午前9時に表層から1m以浅で水温の測定を行った。

結果

図1に平成20年度と平成21年度の測定値の各月の平均値を示した。4月13.2、5月17.0、6月20.0、7月22.8、8月25.5、9月23.8、10月20.9、11月17.6、12月14.9、1月11.6、2月10.0、3月10.1であった。

平成21年度の水溫は平成20年度と比較して4月から5月にかけて0.8~1.2低め、6月にはほぼ同様の値、7月から11月にかけて0.9~2.1高め、12月から1月はほぼ同様の値、2月から3月は1高めで推移した。



(2) 生物相調査

調査地と方法

調査は、平成 21 年 10 月 16 日に世久見湾奥の海浜自然センター北側に隣接する遊歩道地先海域において実施した。

3m四方のコドラートを 3 箇所設置し(図 2) スノーケリングによる目視観察によって、コドラート内に出現した無脊椎動物(軟体動物、甲殻類、棘皮動物、環形動物、刺胞動物)、魚類について記録した。目視観察は、二人一組で 1 コドラートにつき 20 分間行い、表 1 の基準にしたがって記録した。いずれの分類群についても微小な個体や岩の下、割れ目の奥などに隠れているものは調査対象から除外した。



図 2 生物相調査地点

表 1 記録方法

分類群	記録方法	
無脊椎動物	軟体動物(貝類、イカ類、タコ類)、甲殻類(エビ類、カニ類)、棘皮動物(ヒトデ類・ウニ類・ナマコ類・ウミシダ類)、環形動物(ケヤリムシ類)	1~9個体: - 10~19個体: + 20個体以上: ++
	刺胞動物(イソギンチャク類・クラゲ類)	被度 1%未満: - 被度 1%以上: +
魚類	種類と個体数について記録する。 A: 1個体 B: 2~10個体 C: 11~50個体 D: 51個体以上	

結果

調査地の水深は、St.1 が 0.8~2m、St.2 が 1.2m、St.3 が 2~3.5mであった。底質は、St.1 では砂利の中に転石が点在していた。St.2 および St.3 では巨礫が主体であった。結果を表 2~3 に示した。無脊椎動物については、13 目 17 科 20 種、魚類については、2 目 5 科 7 種が確認された。

表 2 定点調査地点結果(無脊椎動物)

綱	目	科	種名	St.1	St.2	St.3
鉢虫	旗口クラゲ	ミズクラゲ	ミズクラゲ	-	-	
軟甲	十脚	ホンヤドカリ	ケアシホンヤドカリ		-	
多板	新ヒザラガイ	クサズリガイ	ヒザラガイ		-	
腹足	古腹足	ミミガイ	クロアワビ	-		
		ニシキウズ	オオコシダカガンガラ ヒメクボガイ	+	++	+
		サザエ	サザエ ウラウスガイ	-		- ++
	新腹足	アッキガイ	ヒメヨウラク レイシガイ		-	+
	アメフラシ	アメフラシ	アメフラシ		-	
	裸鰓	イロウミウシ クロシタナシウミウシ	アオウミウシ ミヤコウミウシ	-		
二枚貝	ウグイスガイ	ウグイスガイ	アコヤガイ	-		
	カキ	イタボガキ	イワガキ			++
頭足	八腕形	マダコ	マダコ		-	
多毛	ケヤリムシ	ケヤリムシ	ケヤリムシ	-		-
ウニ	ホンウニ	オオバフンウニ	バフンウニ		-	
		ナガウニ	ムラサキウニ	-		+
ヒトデ	ヒメヒトデ	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ	-	-	-
9綱	13目	17科	20種	11種	11種	8種

表3 定点調査地点結果（魚類）

目	科	種名	St.1	St.2	St.3
カサゴ	フサカサゴ	カサゴ		A	B
	アイナメ	クジメ	A		
スズキ	ベラ	オハグロベラ	A		
		キュウセン		A	A
	ホンベラ	B	A	A	
	ヘビギンポ	ヘビギンポ	B	A	
	イソギンポ	ニジギンポ			B
2目	5科	7種	4種	4種	4種

(3) ウミガメ調査

目的

定置網で混獲されたウミガメ類を調査することにより、日本海におけるウミガメ類の回遊状況解明の一助とする。

調査地と方法

沿海漁協へ調査表を配布し、ウミガメ類が混獲された場合に報告をうける体制を平成17年から整えている。混獲されたウミガメ類が、漁港まで運搬されている場合、現地に赴き、種名、大きさ（甲長、甲幅）などを記録した。

結果

平成21年度には、オサガメ4頭、タイマイ1頭、アカウミガメ5頭の情報があつた。

混獲、標識放流の記録は、標識放流調査の取りまとめ機関である日本ウミガメ協議会へ報告した。

表4 ウミガメ調査結果

発見日	種名	発見場所等	大きさ			処理	備考	
			甲長	甲幅	体重			
2009年6月18日	オサガメ	若狭三方町漁業協同組合(世久見)	定置網	110.6cm	64.5cm	153kg	解剖	ウミガメ協議会、ふくいウミガメサークルとともに解剖。海浜自然センターで剥製に、性別：。
2009年10月15日	オサガメ	小浜市宇久(浦谷俊晴)	定置網	120cm(曲)	65.7cm	未測定	タグ装着後放流	右前肢：JPN57308、左前肢：JPN57307 右後肢：JPN57309、左後肢：JPN57310 翌日、近隣の定置にて混獲死亡の情報あり。
2009年10月22日	オサガメ	若狭町世久見と塩坂越の間	漂流	118.5cm(曲)	99cm(曲)	未測定	解剖	ウミガメ協議会、ふくいウミガメサークルとともに解剖。腐敗進む。両前肢にロープがかけられていた。上記の個体かは不明。
2009年11月22日	オサガメ	美浜町 松原海岸	漂着	114.0cm(曲)	98.0cm(曲)	未測定	解剖	ウミガメ協議会、ふくいウミガメサークルとともに解剖。腐敗進む。1週間前には漂着していた情報あり。
2009年12月21日	タイマイ	三里浜	漂着	8.61cm	7.6cm	未測定	解剖	福井市自然史博物館へ持ち込み。ウミガメ協議会、ふくいウミガメサークル、福井市自然史博物館とともに解剖。
2010年1月2日	アカウミガメ	水晶浜	漂着	8.15cm	7.41cm	未測定	解剖	福井市自然史博物館へ持ち込み。ウミガメ協議会、ふくいウミガメサークル、福井市自然史博物館とともに解剖。
2010年1月10日	アカウミガメ	三里浜	漂着	9.5cm	8.8cm	未測定	解剖	海浜自然センターへ持ち込み。ウミガメ協議会、ふくいウミガメサークル、福井市自然史博物館とともに解剖。
2010年1月15日	アカウミガメ	三里浜	漂着	8.61cm	7.41cm	未測定	解剖	福井市自然史博物館へ持ち込み。ウミガメ協議会、ふくいウミガメサークル、福井市自然史博物館とともに解剖。
2010年1月16日	アカウミガメ	三里浜	保護	9.79cm	9.55cm	178g	保護	越前松島水族館へ持ち込み。保護。曲甲長10.05cm
2010年1月31日	アカウミガメ	高浜町小黒飯名島沖合	定置網	45cm			放流	若狭高浜漁業協同組合本所から海上保安庁へ連絡。水温計測後(11)すぐに放流。